

## 2020 年度事業報告

### 1. 会議、広報活動および会員数

#### (1) 会議の開催状況

##### (a) 評議員会

開催年月日	会議の内容
第一回 (臨時) 5月9日	(1) 評議員候補者の選出について (2) 2020年度事業計画について (3) 2020年度収支予算書について
第二回 (定時) 6月20日	(1) 2019年度事業報告について (2) 2019年度計算書類(2019年度計算書類、附属書類〔計算書類関係])について (3) 理事及び監事の選任について (4) 評議員の選任について
第三回 (臨時) 3月27日	(1) 2021年度事業計画について (2) 2021年度収支予算書について

##### (b) 理事会

開催年月日	会議の内容
第一回 (臨時) 4月24日	2020年度臨時評議員会開催について
第二回 (通常) 5月16日	(1) 2019年度事業報告(案)について (2) 2019年度計算書類(案)(2019年度計算書類、附属明細書〔計算書類関係])について (3) 2020年度定時評議員会開催について (4) 新入会員の承認 (5) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告

第三回 (通常) 6月20日	(1) 新理事長・副理事長・常任理事の選定 (2) 委員会新主任・新副主任の選任 (3) 事務局に関する提案について (4) 新入会員の承認
第四回 (臨時) 6月20日	2020年度研究大会開催方式、会場、委託業者、参加費について
第五回 (通常) 9月13日	(1) 2020年度学会奨励賞受賞者決定について (2) 新入会員の承認 (3) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第六回 (通常) 10月23日	(1) 会計部スタッフ退職について (2) 新入会員の承認 (3) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第七回 (臨時) 11月28日	2021年度研究大会会場について
第八回 (通常) 12月19日	(1) 2020年度研究大会実行委員会会計決算について (2) 会計スタッフ退職について (3) 2021年度研究大会会場について (4) 2021年度第一回臨時評議員会開催について (5) 新入会員の承認 (6) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第九回 (通常) 3月7日	(1) 2021年度事業計画(案)について (2) 2021年度計算書類(案)(計算書類、附属明細書〔計算書類関係])について (3) 会費(学生会員)改定について (4) 『国際政治』発刊計画について (5) 院生・若手研究組織の改編について (6) 職務規定改定 (7) 新入会員の承認 (8) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告

(c) 総会

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、10月24日、オンライン形式にて会員総会を開催した。

(2) 各種広報活動の状況

実施月	実施内容	対象者	発行形態
4月28日	Newsletter 163号刊行	会員	学会ウェブサイト公開
8月21日	Newsletter 164号刊行	会員	
11月2日	Newsletter 165号刊行	会員	
2月8日	Newsletter 166号刊行	会員	

①Newsletterは学会ウェブサイトで公開している。

(<http://jair.or.jp/publication/nl.html>)

②Newsletterの目的は、評議員会・理事会・各種委員会・分科会・事務局の活動の現況と今後の方針について情報を発信するとともに、会員からの声を反映し、会員相互の情報交換を促進することにある。

③学会ウェブサイトを通じた情報発信も継続・拡充し、今期は刊行物の案内11件、理事会・委員会からの連絡31件、研究大会の関連情報29件、シンポジウム等の案内や公募情報53件、合計124件の発信を行った。

④会員に対する情報提供のサービスとしてメーリングリストを活用した情報提供を実施し、Newsletterの刊行や研究大会の報告者募集および学会誌への投稿募集などについて連絡を行った。

(3) 会員数の状況

2020年度新入会員	71名
2020年度退会会員	76名

種別	人数
維持会員	0名
一般会員	1,524名
学生会員	261名
シニアA会員	87名
シニアB会員	79名
家族会員	38名
計	1,989名

2021年3月31日現在

## 2. 事業の成果

### (1) 継 1. 機関誌・書籍発行业

1. 和文機関誌『国際政治』201号「ソ連研究の新たな地平」、202号「一九三〇年代の国際秩序構想」、203号「核と国際政治」、204号「国際政治研究の先端18」をそれぞれ刊行した。レフェリーによる厳正な審査を行うことによって、高い学術研究水準を確保すると同時に、204号は独立論文号として特に若手研究者がその研究成果を発表する機会を提供した。

2. 研究成果の公開を一段と進めるため、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム(J-STAGE)を活用して、すでに200号まで掲載されている『国際政治』のバックナンバーを今期は196号まで無料公開した。

3. 英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific (IRAP)* については、Vol.20, No.2、同 No.3、Vol.21, No.1 の計3冊を発行した。投稿論文の掲載可否を判断するにあたっては、国際的なレフェリー陣による厳正な審査を行い、国際的学術交流の最前線として高い水準を維持した。なお、Vol.21, No.1 より、発行形態を従来の紙媒体から電子ジャーナルへと変更した。

4. IRAP のインパクト・ファクターは2016年度には0.676であったが、2019年度には1.233に上がり、最新版の2020年度には1.406にさらに上がっている。

### (2) 継 2. 研究会・講演会事業

1. 10月23日～10月25日に新型コロナウイルスをめぐる状況を考慮し、初のオンライン形式による研究大会を開催した。大会参加者は、3日間でオンライン会場にアクセスした端末総数(重複を含まない)で734を数えた。共通論題はパネルディスカッション方式で行い、通常部会14、日韓合同部会1、分科会32の企画を実施した。

2. 研究大会における部会、分科会プログラムは添付資料の通りである。

### (3) 継 3. 国際学術交流事業

1. 海外における研究成果発表や研究交流を促すため、国際会議に参加する会員に対してその渡航費などの支援を行う国際学術交流助成制度を今年度も継続したが、新型コロナウイルス感染症の拡大により海外での学会が軒並み延期または中止されたため、実施されなかった。

2. KAIS(韓国国際政治学会)との交流を行った。日本国際政治学会から2名の報告者が12月5日にKAISのオンライン研究大会にオンラインで出席し、大矢根理事長が日本国際政治学会を代表して挨拶文を寄稿した。また、日本国際政

治学会の研究大会（10月24日）では、日韓合同部会“Japan, Korea and the Post-Cold War Era”を開催し、KAISから2名、日本国際政治学会から4名が報告者・討論者・司会者としてオンラインで参加した。

3. 研究大会では、日韓合同部会の開催について江草基金より国際研究集会開催助成を受けた。

4. International Studies Association (ISA)、WISC (World International Studies Committee) など海外諸学会の動向や学術情報を会員に伝えて会員の国際学術会議への参加を促し、諸地域・諸外国との学術交流のネットワーク構築に取り組んだ。

#### (4) 他 1. 研究活動奨励事業

2020年度の第13回学会奨励賞を、早丸一真会員の「一八六〇年代初頭における天朝の定制と外政機構の変動—中国近代外交形成論批判」(『国際政治』197号)に授与した。本賞は2008年度に創設されたものであり、前年度の和文機関誌『国際政治』および英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific* の執筆者のうち、40歳以下の若手会員を対象とした学会賞で、学会奨励賞選考委員会が選考を行う。

また、早丸会員による論文英訳に対して助成を行った。

#### 3. その他重要な事項

新型コロナウイルスの感染拡大により、学生会員を取り巻く経済状況が急速に悪化していることを鑑み、学生会員の希望者に対し2020年度の年会費を半減する措置を講じ、76名の申し込みがあった。また、2021年度からの実施事項として、学生会員の会費削減、院生・若手研究組織の統合、および院生・若手研究者に対する国内旅費の支援措置を決定した。

#### 4. 庶務の概要

##### (1) 役員等に関する事項

##### 2020年度役員名簿（アイウエオ順）

理事長	大矢根 聡	同志社大学教授
副理事長	飯田 敬輔	東京大学教授
理事	青山 瑠妙	早稲田大学教授
	磯崎 典世	学習院大学教授
	遠藤 貢	東京大学教授
	楠 綾子	国際日本文化研究センター准教授
	葛谷 彩	明治学院大学教授

	倉科 一希 鈴木 基史 武田 知己 都留 康子 潘 亮 宮城 大蔵 和田 洋典	広島市立大学教授 京都大学教授 大東文化大学教授 上智大学教授 筑波大学教授 上智大学教授 青山学院大学教授
監事	篠原 初枝 山田 敦	早稲田大学教授 一橋大学教授

評議員	赤木 完爾 石田 淳 遠藤 誠治 大芝 亮 太田 宏 吉川 元 國分 良成 古城 (久具) 佳子 酒井 啓子 佐々木 卓也 田所 昌幸 中西 寛	慶應義塾大学名誉教授 東京大学教授 成蹊大学教授 広島平和研究所所長 早稲田大学教授 広島市立大学教授 防衛大学校校長 青山学院大学教授 千葉大学教授 立教大学教授 慶應義塾大学教授 京都大学教授
-----	---	---

1. 一般財団法人 日本国際政治学会 2020 年度研究大会  
部会・共通論題プログラム

---

第1日 10月23日(金) 13:00~15:30

---

午後の部会 (13:00~15:30)

部会1 「IR理論に依拠した学際的地域研究」

司会 草野 大希 (上智大学)

報告 重政 公一 (関西学院大学)

「ASEANの弁証法——人権と民主化をみる IR理論のパーспекティブ」

中村 覚 (神戸大学)

「サウディアラビアのロヒンギャ危機への対応——複合的な地域研究法を統合する全方位  
均衡論の試み」

大澤 傑 (駿河台大学)

「米州ボリバル同盟の設立と変容を説明する要因は何か——IR理論と地域研究の可能性と  
限界」

討論 酒井 啓子 (千葉大学)

勝間田 弘 (東北大学)

部会2 「帝國的秩序の崩壊と西側同盟関係」

司会 羽場 久美子 (青山学院大学)

報告 藤井 篤 (香川大学)

「脱植民地化と西側同盟——アルジェリア戦争とフランス・ベルギー関係」

三須 拓也 (東北学院大学)

「コンゴ動乱を巡る米英関係」

鈴木 宏尚 (静岡大学)

「再考・池田政権と東南アジア」

討論 都丸 潤子 (早稲田大学)

寺地 功次 (共立女子大学)

部会3 「21世紀東アジアにおける政治的価値観の対立——中国・台湾・香港関係の視点から」

司会 益尾 知佐子 (九州大学)

報告 谷垣 真理子 (東京大学)

「香港社会における『自由』の重要性——『一国』への挑戦」

門間 理良 (防衛省防衛研究所)

「COVID-19 流行の中で政治的価値強化に努める台湾」

加茂 具樹 (慶應義塾大学)

「国内政治と対外政策の相互作用：中国の国内政治としての対香港政策」

討論 松田 康博 (東京大学)

竹中 千春 (立教大学)

#### 部会 4 “The Development and Limits of Regional Institutions: Comparative Studies of Non-Western Cases” (英語で実施)

**Chair:** HIGASHINO Atsuko (University of Tsukuba)

**Speakers:**

KOGA Kei (Nanyang Technological University)

“Strategic Role of Regional Security Institutions: Cases of SCO and SAARC”

SUZUKI Sanae (The University of Tokyo)

“Intervention and State Strength: ASEAN and ECOWAS Compared”

MUELLER Lukas Maximilian (University of Freiburg)

“Re-assessing Regionalism in the Global South from the inside out: Regional Public Administrations’ Contribution to ASEAN’s and ECOWAS’s Policy Processes”

**Discussant:**

DAIDOUJI Ryuya (Waseda University)

YUZAWA Takeshi (Hosei University)

#### 部会 5 「冷戦を考える——歴史・思想・植民地主義の観点から」

司会 下斗米 伸夫 (神奈川大学)

報告 倉科 一希 (広島市立大学)

「冷戦と『ドイツ問題』」

鈴木 陽一 (下関市立大学)

「イギリス帝国終焉への道——冷戦期国際社会の変容と脱植民地化」

西村 邦行 (南山大学)

「〈政治哲学の死〉の影で——冷戦期アメリカ国際関係論の精神史試論」

討論 葛谷 彩 (明治学院大学)

池田 亮 (東北大学)

分科会セッション A (15:45~17:15) 別掲

分科会セッション B (17:30~19:30) 別掲

---

第 2 日 10 月 24 日 (土) 9:30~12:00, 15:30~18:20 (共通論題)

---

午前の部会 (9:30~12:00)

**部会 6 “Critical Analysis of Global Policy on Humanitarian Crisis” (英語で実施)**

**Chair:** KAWAGUCHI Chigumi (Toyo Gakuen University)

**Speakers:**

KAMINO Tomoya (Gifu University)

“National Policy of Disaster Response: the US and Japan”

GOMEZ Oscar A. (Ritsumeikan Asia Pacific University)

“A Model for the Global Governance of Crises? The Health Emergencies Programme and the Limits of International Response”

IKEDA Josuke (University of Toyama)

“Peacebuilding Paradigm Sustainable? A Critical Theoretical Inquiry through Forced Displacement”

**Discussant:**

OKABE Midori (Sophia University)

SHIGA Hiroaki (JICA Research Institute)

**部会 7 「エアバス、欧州航空機産業と米国——経済ロジックと安全保障ロジックの融合と対立」**

司会 鈴木 一人 (北海道大学)

報告 鈴木 均 (外務省)

「エアバスと米国——経済ロジックと安保ロジックの相克と対立」

上原 良子 (フェリス女学院大学)

「仏ダッソー社の独自路線——国家・安全保障・グローバルマーケット」

河越 真帆 (神田外語大学)

「EU によるエアバス側面支援——補助金をめぐる GATT/WTO 紛争」

討論 鈴木 一人 (北海道大学)

田所 昌幸 (慶應義塾大学)

**部会 8 「グローバル・リスクをめぐるガバナンス」**

司会 山田 哲也 (南山大学)

報告 川村 仁子 (立命館大学)

「先端科学・技術のガバナンス——研究開発のためのリスク管理の枠組み」

前田 幸男 (創価大学)

「人類は気候危機を乗り越えられるのか?——脱人間中心のガイア政治に向けて」

和田 洋典 (青山学院大学)

「金融主導のグローバリズムから経済国民義へ——リスト、大塚、ギルピンの所論から」

討論 須田 祐子 (東京外国語大学)

上村 雄彦 (横浜市立大学)

## 部会 9 「変容する国際関係と日本の開発援助」

司会 高柳 彰夫 (フェリス女学院大学)

報告 高橋 良輔 (青山学院大学)

「ジオエコノミクス化する日本の ODA——パワーと価値の新たな地理的投射」  
船田クラーセン さやか (明治学院大学)

「国際関係と日本の対アフリカ投資・開発援助——モザンビークの事例」  
山本 レイモンド (オーフス大学)

"Japan's Development Cooperation Strategy and the SDGs? Analysing the country's efforts towards  
'Climate Action'"

討論 岡部 恭宜 (東北大学)

小川 裕子 (東海大学)

## 部会 10 日韓合同部会 “Japan, Korea and the Post-Cold War Era” (英語で実施)

司会 飯田 敬輔 (東京大学)

報告 佐藤 丙午 (拓殖大学)

『新しい通常』と日米韓の安全保障関係」

CHUN Jahyun (Yonsei University)

"Clashing Geostrategic Choices in East Asia, 2009-2015: Re-balancing, Wedge Strategy, and  
Hedging"

KIM Dongsoo (Pukyong National University)

"Changes in International Relations and U.S.-China Relations in the Age of COVID-19"

討論 添谷 芳秀 (慶應義塾大学)

上村 直樹 (南山大学)

## 分科会セッション C (13:30~15:10) 別掲

総会 (15:10~15:30)

### 【共通論題】『主権』をめぐる攻防 (15:30~18:20)

司会 後藤 春美 (東京大学)

報告 中西 寛 (京都大学)

「普通の国から不思議の国へ——冷戦後の日本と主権」

勝間 靖 (早稲田大学)

「COVID-19 影響下における国際機構、国際保健協力、政治的リーダーシップのゆくえ——  
WHO、製薬企業、シラクサ原則をめぐる論争」

錦田 愛子 (慶應義塾大学)

「国家主権の外側におかれる者の危機——移民／難民およびパレスチナの権利をめぐる」

討論 納家 政嗣 (上智大学)

長 有紀枝 (立教大学)

---

**第3日 10月25日（日）14:00～16:30**

---

分科会セッションD（9:30～11:00）別掲

分科会セッションE（11:15～12:45）別掲

午後の部会（14:00～16:30）

**部会11 「平和構築と国際秩序」**

司会 井上 実佳（東洋学園大学）

報告 篠田 英朗（東京外国語大学）

「パートナーシップ平和活動と重層的な国際安全保障体制」

帯谷 俊輔（東京大学）

「国際連盟期の平和維持——大戦・国境紛争・内戦」

中谷 純江（国際連合）

「国連と地域機構のPKOに於けるパートナーシップ——スーダンを参照とした現実を踏まえて」

討論 等松 春夫（防衛大学校）

井上 実佳（東洋学園大学）

**部会12 「日米安保体制と核兵器問題」**

司会 波多野 澄雄（国立公文書館）

報告 中島 琢磨（九州大学）

「原子力潜水艦の日本寄港問題——核兵器搭載艦艇の寄港問題の争点化」

西村 真彦（京都大学）

「核持ち込み問題に関する日米両国の認識形成過程——核『密約』研究の現状と課題」

岸 俊光（毎日新聞社／早稲田大学）

「日本の非核政策の源流——日本政府下の『現実主義』学者による委託研究からの考察」

討論 岩間 陽子（政策研究大学院大学）

河内 孝（外国特派員協会）

**部会13 「歴史研究と理論研究の融合はどこまで可能か——新たな研究方法の模索」**

司会 宮下 明聡（東京国際大学）

報告 島村 直幸（杏林大学）

「リベラルな国際秩序ははたして維持されるのか——理論と歴史の間」

中谷 直司（帝京大学）

「外交史の研究者はなぜ理論を使わないのか——研究者の『生存競争』を超えて」

泉川 泰博（中央大学）

「理論研究と歴史研究の統合——懐疑的見解」

討論 宮下 明聡（東京国際大学）

山本 健（西南学院大学）

#### 部会 14 「レファレンダムと国際政治——民主主義と地域的秩序の共振」

司会 池本 大輔（明治学院大学）

報告 尾立 要子（大阪府立大学）

「暴力から共存へ——2018 年レファレンダムに至るフランスとニューカレドニアの絶えざる交渉」

高林 敏之（立教大学）

「棚上げされた住民投票——西サハラ国連和平プロセスの《破綻》とアフリカ地域情勢」

吉武 信彦（高崎経済大学）

「欧州統合過程におけるレファレンダム——北欧諸国の事例を中心として」

討論 池本 大輔（明治学院大学）

黒田 友哉（専修大学）

#### 部会 15 「ナショナリズムと暴力」

司会 加藤 普章（大東文化大学）

報告 青山 弘之（東京外国語大学）

「シリアの非国家武装勢力の実態」

岡野 英之（近畿大学）

「隣国に漏出するナショナリズム——ミャンマー内戦におけるシャン人ナショナリズムとタイへの移民」

奥野 良知（愛知県立大学）

「カタルーニャ・スペイン問題：その要因と現状——進む国際問題化」

討論 落合 雄彦（龍谷大学）

内田 みどり（和歌山大学）

#### 分科会プログラム

◆10月23日（金）

分科会セッション A（15:45～17:15）

A-1 東南アジア分科会 I 責任者 増原 綾子（亜細亜大学）

テーマ 東南アジアの地方政治

司会 増原 綾子（亜細亜大学）

報告 西村 謙一（大阪大学）

「住民参加は自治体パフォーマンスにいかなる影響を与えるのか——フィリピンを例にして」

長谷川 拓也（京都大学）

「地方発の政策革新とその波及——インドネシア公務員報酬制度の変化」

討論 日下 渉（名古屋大学）

小山田 英治（同志社大学）

- A-2 理論と方法 I** 責任者 岩波 由香里 (大阪市立大学)
- テーマ 実験・計量分析
- 司会 小濱 祥子 (北海道大学)
- 報告 松本 朋子 (東京理科大学)
- "The Role of Concern for Self in Redistribution Preferences and Support for the Welfare State"
- 飯田 健 (同志社大学)
- "Does a Patron State's Hardline Posture Reassure the Public in an Allied State?: Evidence from a Quasi-Natural Experiment"
- 土井 翔平 (早稲田大学)、栗崎 周平 (早稲田大学)
- 「新たな安全保障問題としての ESG 投資ジレンマ——グローバルな株保有ネットワークの分析」
- 篠本 創 (京都大学)
- 「米国の積極的関与と反米感情——脅威認識と駐留米軍の規模の観点から」
- 討論 松村 尚子 (神戸大学)
- 伊藤 岳 (広島大学)
- 
- A-3 政策決定分科会** 責任者 川名 晋史 (東京工業大学)
- テーマ イノベーションエコシステムの変容と管理をめぐる政策決定
- 司会 高山 嘉頭 (日本国際問題研究所)
- 報告 松村 博行 (岡山理科大学)
- 「STEM 人材の受け入れを巡る政策決定——トランプ政権を中心」
- 齊藤 孝祐 (横浜国立大学)
- 「新興技術の普及と規制——『想像上の価値』をめぐる安全保障政策の変容」
- 討論 土屋 貴裕 (京都先端科学大学)
- 手塚 沙織 (南山大学)
- 
- A-4 国際交流分科会 I** 責任者 齋川 貴嗣 (高崎経済大学)
- テーマ 国際文化交流からグローバル文化交流へ——国際交流研究の将来を展望する (ラウンドテーブル)
- 司会 加藤 恵美 (帝京大学)
- 報告者 芝崎 厚士 (駒澤大学)
- 「『文化』と『文化』の出会い——グローバル交流研究のための覚書」
- 討論 井上 浩子 (大東文化大学)
- 齋川 貴嗣 (高崎経済大学)
- 
- A-5 国連研究分科会** 責任者 滝澤 美佐子 (桜美林大学)
- テーマ 国連専門機関と加盟国との関係——対立と協力の諸動向
- 司会 滝澤 美佐子 (桜美林大学)

報告 張 雲 (新潟大学)  
「権威主義体制における国際機関の運営メカニズム——世界労働機関とミャンマー軍政中  
枢の認知変化の事例を中心に」

訖摩 佳代 (東京都立大学)

「グローバル・ヘルスガバナンスの変容とアクター——新型コロナ対応で見えた課題」

討論 勝間 靖 (早稲田大学)

杉浦 功一 (和洋女子大学)

**A-6 若手研究者・院生研究会分科会 I** 責任者 湯浅 拓也 (青山学院大学)

テーマ 国際金融の枠組みをめぐる国際政治

司会 大山 貴稔 (九州工業大学)

報告 津田 久美子 (北海道大学)

「国際課税から見る国際金融規制の枠組み」

川波 竜三 (慶應義塾大学)

「戦後国際通貨システムの動揺とアメリカ——ポンド危機に揺れるイギリスへの対応、1964  
～1968年」

討論 古城 佳子 (青山学院大学)

山口 育人 (奈良大学)

### 分科会セッション B (17:30～19:30)

**B-1 東アジア** 責任者 加茂 具樹 (慶應義塾大学)

テーマ 東アジア

司会 加茂 具樹 (慶應義塾大学)

報告 山崎 周 (青山学院大学)

「中国の対米戦略とそのエネルギー安全保障問題へ影響——対中東エネルギー政策及び日  
両国の比較から考察」

李 孝連 (一橋大学)

「国際関係における国家ブランド・イメージ形成のメカニズム——日本の人的交流の事例  
を中心に」

討論 田中 浩一郎 (慶應義塾大学)

中村 登志哉 (名古屋大学)

**B-2 東南アジア分科会 II** 責任者 増原 綾子 (亜細亜大学)

テーマ 東南アジアにおける理念と国際関係

司会 増原 綾子 (亜細亜大学)

報告 西 直美 (同志社大学)

「宗教とナショナリズム——イスラームからみるタイ深南部紛争の諸相」

井原 伸浩（名古屋大学）  
「経済協力理念としてのマニラ・スピーチとその政策」  
討論 河野 毅（東洋英和女学院大学）  
若月 秀和（北海学園大学）

**B-3 理論と方法Ⅱ** 責任者 岩波 由香里（大阪市立大学）

テーマ 応用ゲーム理論

司会 岩波 由香里（大阪市立大学）

報告 広瀬 健太郎（早稲田大学）

“Why Power Asymmetry Prevents War: Bargaining in the Shadow of Cooperation”

石黒 馨（神戸大学）

「貿易戦争の緩衝としての貿易協定」

井奥 崇輔（早稲田大学）

“Resolved or Belligerent: Threats and Assurances with Military Mobilization”

討論 栗崎 周平（早稲田大学）

岩波 由香里（大阪市立大学）

**B-4 国際政治経済分科会Ⅰ** 責任者 小川 裕子（東海大学）

テーマ 国際規範の新次元

司会 小川 裕子（東海大学）

報告 赤星 聖（関西学院大学）

“Roles of Guiding Principles in the Polycentric World: A Comparative Study of ‘Business and Human Rights’ and ‘Internal Displacement’”

稲田 十一（専修大学）

「急拡大する中国の対外経済協力とその『規範』の変容可能性——ミャンマー・ミッソンドムの事例を中心に」

討論 西谷 真規子（神戸大学）

和田 洋典（青山学院大学）

**B-5 国際交流分科会Ⅱ** 責任者 齋川 貴嗣（高崎経済大学）

テーマ 自由論題報告

司会 齋川 貴嗣（高崎経済大学）

報告 上地 聡子（日本大学）

「『沖縄人』という一体感の構築——敗戦直後における沖縄『在外同胞』情報共有過程の分析から」

島田 大輔（早稲田大学）

「冷戦下日本における対ムスリム宣伝工作と国際交流——国際モスLEM協会（1952-60）とその機関誌 Green Flag の分析を通じて」

平井 新（早稲田大学）  
『『対外戦略』としての移行期正義——台湾の対中国大陸向け声明を事例に』  
討論 辛島 理人（神戸大学）  
五十嵐 元道（関西大学）

**B-6 若手研究者・院生研究会分科会Ⅱ** 責任者 湯浅 拓也（青山学院大学）

テーマ 国際秩序をめぐる先端研究

司会 深澤 一弘（一橋大学）

報告 水野 良哉

『『ヨーロッパの再建』を目指して——第一次世界大戦下におけるアーノルド・J・トインビーの戦後構想』

守谷 優希（一橋大学）

「加盟国の外交姿勢からの欧州連合の外交政策の再解釈——ベルギーと日欧 SPA」

渡辺 司（青山学院大学）

「国内紛争における第三者介入の効果——紛争期間に対する直接効果と間接効果」

討論 小濱 祥子（北海道大学）

湯浅 拓也（青山学院大学）

#### ◆10月24日（土）

#### 分科会セッションC（13:30～15:10）

**C-1 日本外交史分科会** 責任者 高橋 和宏（法政大学）

テーマ 自由論題

司会 高橋 和宏（法政大学）

報告 金子 貴純（大東文化大学）

「日中諸懸案の『地方的解決』をめぐる外務省と陸軍の論理と政策——1935年を中心に」

森田 吉彦（大阪観光大学）

「高坂正堯の国際政治思想と学問形成」

八代 拓（山口大学）

「池田政権とカレル・ドールマン号事件——冷戦と経済の交錯」

討論 戸部 良一（防衛大学校）

細谷 雄一（慶應義塾大学）

佐藤 晋（二松學舎大学）

**C-2 欧州国際政治史・欧州研究分科会Ⅰ** 責任者 池田 亮（東北大学）

テーマ イギリスと中東・地中海

司会 池田 亮（東北大学）

報告 入山 慎一（東京大学）

「ジブラルタル問題とイギリス外交（1964年～69年）——国連における脱植民地化の議論と英西関係」

ミラー富永 枝里香（一橋大学）

「1973年石油危機と中東和平プロセスにおけるイギリスの対米協調政策」

田中 亮佑（防衛研究所）

「英国保守党とイラク戦争——冷戦後の対湾岸政策と武力行使の観点から」

討論 小野沢 透（京都大学）

細田 晴子（日本大学）

小川 浩之（東京大学）

### C-3 アフリカ分科会・国連研究分科会

責任者

佐藤 章（アジア経済研究所）

滝澤 美佐子（桜美林大学）

テーマ アフリカと国連——脱植民地化から平和の定着へ

司会 佐藤 章（アジア経済研究所）

報告 山田 真弓（立命館大学）

「人道開発と平和構築における国連の役割——南スーダンの現状と課題」

井上 実佳（東洋学園大学）

「1990年代における国連PKOの変容とソマリア——『グールディング・レポート』（1997）の地域機構に関する提言をめぐって」

佐藤 裕視（ハーバード大学）

「エウエ統一運動と英国信託統治領トーゴの自決——国連を介したトランスファー・オブ・パワーの模索」

討論 前川 和歌子（名古屋商科大学）

三須 拓也（東北学院大学）

### C-4 理論と方法Ⅲ

責任者

岩波 由香里（大阪市立大学）

テーマ テキスト分析

司会 多湖 淳（早稲田大学）

報告 片桐 梓（シンガポール南洋理工科大学）

“Deliberating for De-escalation: US Troop Withdrawal from Vietnam”

ジョナサン ルイス（一橋大学）、松村 尚子（神戸大学）、大林 一広（一橋大学）、渡辺 綾（日本貿易振興機構（JETRO）アジア経済研究所）

“Legislative Speeches and Political Violence: The Case of the Philippines”

討論 松本 朋子（東京理科大学）

### C-5 国際統合分科会 I

責任者

武田 健（東海大学）

テーマ 欧州統合の求心力——域内と域外の比較

司会 武田 健（東海大学）

報告 市川 顕（東洋大学）  
「イリベラル・デモクラシーをめぐるポーランド＝EU 関係——ポーランドの COVID-19 対策を事例に」

討論 羽場 久美子（青山学院大学）  
小林 正英（尚美学園大学）

**C-6 国際政治経済分科会Ⅱ** 責任者 小川 裕子（東海大学）

テーマ グローバル・ガバナンスの新形態

司会 小川 裕子（東海大学）

報告 三浦 聡（名古屋大学）

“Life Between Fragmentation and Integration: An Ecosystem Model of Global Governance”

上村 雄彦（横浜市立大学）

「人類の生存危機を回避するためのグローバルな政策と制度に関する一考察——グローバル・タックスと世界政府論を中心に」

向山 直佑（オックスフォード大学）

“Painting States in Oil: The Separate Independence of Resource-Rich Colonial Areas”

討論 山田 敦（一橋大学）

遠藤 貢（東京大学）

**C-7 環境** 責任者 渡邊 智明（福岡工業大学）

テーマ 地球環境レジームの「有効性」問題

司会 亀山 康子（国立環境研究所）

報告 川本 充（慶應義塾大学）

「地球環境条約レジームの『実効性』概念について——多義性からの考察」

阪口 功（学習院大学）

「プライベートレジーム・コンプレックスとメタ・ガバナンス・スキーム——制度間相互作用と有効性問題」

討論 渡邊 智明（福岡工業大学）

横田 匡紀（東京理科大学）

◆10月25日（日）

分科会セッション D（9:30～11:00）

**D-1 東アジア国際政治史分科会** 責任者 家永 真幸（東京女子大学）

テーマ 戦後日本における「外国人」管理をめぐる政治・外交

司会 家永 真幸（東京女子大学）

報告 崔 紗華（同志社大学）

「朝鮮籍回復運動の展開過程とその意義——1960年代後半における日朝・日韓関係に着目」

して」

鶴園 裕基（早稲田大学）

「外国人登録と日本華僑——占領期における華僑管理政策の展開（1947-1951）」

討論 新垣 修（国際基督教大学）

井上 正也（成蹊大学）

**D-2 欧州国際政治史・欧州研究分科会Ⅱ** 責任者 池田 亮（東北大学）

テーマ 冷戦期ヨーロッパの諸構想

司会 山本 健（西南学院大学）

報告 黒木 美來（早稲田大学）

「欧州統合構想をめぐるイギリス労働党と欧州統合運動団体の対立——1948年5月ハーグ会議への参加問題を事例として」

高坂 博史（京都大学）

「新冷戦下の欧州における安全保障ダタントの展開と西欧の役割」

討論 上原 良子（フェリス女学院大学）

黒田 友哉（専修大学）

**D-3 ラテンアメリカ分科会** 責任者 舛方 周一郎（東京外国語大学）

テーマ 内政と国際関係の再検証

司会 舛方 周一郎（東京外国語大学）

報告 山岡 加奈子（アジア経済研究所）

「中ロ台頭下のキューバ革命体制の存続要因としての外交——ベトナムとの比較」

舛方 周一郎（東京外国語大学）

「ラテンアメリカ気候変動政策への中国戦略的パートナーシップの関与」

討論 庄司 智孝（防衛研究所）

鄭 方婷（アジア経済研究所）

**D-4 国際統合分科会Ⅱ** 責任者 武田 健（東海大学）

テーマ ヨーロッパの地域機構と主権国家

司会 鶴岡 路人（慶應義塾大学）

報告 大内 勇也（早稲田大学）

"The Operationalization of European Human Rights Norms in the 1960s: the Greek Case in the Council of Europe"

清水 謙（立教大学）

「スウェーデンにおける『中立』と欧州統合——第一次パルメ政権期の西側軍事協力とEC加盟論」

討論 網谷 龍介（津田塾大学）

鶴岡 路人（慶應義塾大学）

**D-5 国際政治経済分科会Ⅲ**

責任者 小川 裕子（東海大学）

テーマ グローバル・ガバナンスとビジネス

司会 小川 裕子（東海大学）

報告 鈴木 麻央（南カリフォルニア大学）

"Deciding Modalities of Global Health Governance: What Facilitates or Hinders Public-Private Partnerships?"

御代田 有希（一橋大学）

「グローバル課題の解決手法としての ESG 投資——日本における傾向と普及要因を事例に」

藤田 将史（東京大学）

「米国有権者の国際貿易協定に対する反発—— 一般的信頼による貿易選好の形成」

討論 杉之原 真子（フェリス女学院大学）

鈴木 一敏（上智大学）

**D-6 平和研究分科会**

責任者 清水 奈名子（宇都宮大学）

テーマ 自由論題

司会 清水 奈名子（宇都宮大学）

報告 小松 寛（茨城大学）

「日本復帰後の沖縄県による自治体外交と中台問題」

外村 晃（在スリランカ日本大使館）

「中断された正義——スリランカの移行期の正義における今後の見方」

討論 深串 徹（愛知大学）

クロス 京子（京都産業大学）

**D-7 若手研究者・院生研究会分科会Ⅲ**

責任者 湯浅 拓也（青山学院大学）

テーマ 自由貿易体制における社会課題

司会 湯浅 拓也（青山学院大学）

報告 深澤 一弘（一橋大学）

「なぜアメリカと EU では貿易に関する労働条項に差異があるのか——自由貿易協定の事例分析」

討論 富田 晃正（埼玉大学）

岡本 次郎（下関市立大学）

**分科会セッション E（11:15～12:45）****E-1 欧州国際政治史・欧州研究分科会Ⅲ**

責任者 池田 亮（東北大学）

テーマ グローバル・ヒストリーからみる国際法／国際社会の「拡大」——C. H. Alexandrowicz と英国学派

司会 大中 真 (桜美林大学)  
報告 幡新 大実 (大阪女学院大学)  
「アレクサンドロヴィッチにおける『国際社会』の構成国要件に関する史実的批判」  
千知岩 正継 (立命館アジア太平洋大学)  
「国際社会の『拡大』再考——英国学派と国際機構論の邂逅に向けた予備的作業」  
討論 池田 丈祐 (富山大学)

**E-2 アメリカ政治外交・東アジア国際政治史合同分科会** 責任者 森 聡 (法政大学)

テーマ 冷戦期デタント外交再考  
司会 森 聡 (法政大学)  
報告 兪 敏浩 (名古屋商科大学)  
「デタントと中国外交の転換 (1972-1974)」  
尾身 悠一郎 (一橋大学)  
「カーター政権の対ソ・対中エネルギー政策」  
討論 益尾 知佐子 (九州大学)  
水本 義彦 (獨協大学)

**E-3 中東分科会** 責任者 松尾 昌樹 (宇都宮大学)

テーマ 国際情勢の変化と内政——相互作用のダイナミクス  
司会 松尾 昌樹 (宇都宮大学)  
報告 鈴木 啓之 (東京大学)  
「和平と和解のジレンマ——パレスチナ暫定自治政府を事例に」  
千坂 知世 (大阪大学)  
「イラン・イスラム共和制における選挙による対外的正当性の追求」  
討論 松永 泰行 (東京外国語大学)  
錦田 愛子 (慶應大学)

**E-4 国際統合分科会Ⅲ** 責任者 武田 健 (東海大学)

テーマ ヨーロッパ統合の多次元連関——サブナショナル、ナショナル、EU、インターナショナル  
司会 望月 康恵 (関西学院大学)  
報告 松尾 秀哉 (龍谷大学)  
「分離独立運動と EU——ベルギーを例として」  
小松崎 利明 (天理大学)  
「EU の対国際刑事裁判所政策の態様」  
討論 松本 佐保 (名古屋市立大学)  
望月 康恵 (関西学院大学)

- E-5 安全保障分科会** 責任者 小谷 哲男 (明海大学)
- テーマ 安全保障の思想と理論
- 司会 小谷 哲男 (明海大学)
- 報告 張 帆 (京都大学)
- 「冷戦後期の防衛論争と日本的現実主義者」
- Ivan González Pujol (専修大学)
- “Making Theoretical and Analytical Sense out of the Hedging Strategy: National Interests, Genuine Objectives, and Mixed Means of Foreign Policy”
- 佐桑 健太郎 (青山学院大学)、渡辺 理子 (無所属)
- “Intentional Alliance and Rivalry Networks and Conflict Diffusion: Simulating the Effect of Network Structure”
- 討論 泉川 泰博 (中央大学)
- 中山 俊宏 (慶應義塾大学)
- 
- E-6 ジェンダー分科会** 責任者 中村 文子 (山形大学)
- テーマ 武力紛争と女性
- 司会 中村 文子 (山形大学)
- 報告 米川 正子 (筑波学院大学)
- “Forced Displacement and Sexual Violence in Conflict Zones: A Case Study of Congolese Refugee Women”
- 高松 香奈 (国際基督教大学)
- 「紛争後の復興プロセスとジェンダー——女性兵士の処遇をめぐって」
- 討論 上野 友也 (岐阜大学)

## 2. 和文学機関誌『国際政治』201号～204号掲載論文

『国際政治』201号
松井 康浩「序論 ソ連研究の新たな地平」
岩下 明裕「ソ連／ロシアの対中・対日外交から学ぶべき教訓」
地田 徹朗「ペレストロイカと環境問題」
李 優大「ソヴェト・ロシアの対イラン外交の始まり」
藤本健太郎「ソ連の対日政策におけるアメリカファクター (一九二〇—一九三三)」
河本 和子「戦間期ソ連におけるコンセッションと対外経済関係」
宇山 智彦「ペレストロイカ期中央アジアにおける共和国の自立と民族問題の関係」
溝口 修平「大統領任期延長の正統性」
<書評論文>
水本 義彦「戦後イギリス外交の再編期における英米の『特別な関係』」
西田 竜也「二極か一極か——アジア太平洋地域の国際システムにおける構造的変化」
書評：中村 文子、池田 丈佑、鈴木 絢女

『国際政治』202号

三牧 聖子「一九三〇年代に回帰する米国？」  
高橋 慶吉「サムナー・ウェールズと西半球秩序」  
水野 良哉「アーノルド・J・トインビーと一九三〇年代後半のヨーロッパ国際情勢」  
重松 尚 「権威主義政権に対抗するファシズム体制構想」  
工藤 芽衣「一九三〇年代仏新自由主義の誕生と国際秩序」  
<書評論文>  
北村 厚 「二〇世紀前半のヨーロッパにおける内戦・暴力・民主主義」  
亀山 康子「エネルギー・気候変動政策から紐解く国際関係」  
書評：今野 茂充、武田 健、山口 航

『国際政治』203号

植木（川勝）千可子「序論 核と国際政治」  
一政 祐行「『第二の核時代』論再考」  
秋山 信将「大国間関係の変容と軍備管理体制」  
戸崎 洋史「ポスト冷戦後の核軍備管理」  
向 和歌奈「核軍縮の試みに見る核抑止概念の固定化への一考察」  
野口 和彦「国際システムを安定させるものは何か」  
足立 研幾「核不拡散規範の行方」  
山添 博史「ロシアの国際闘争手段としての核兵器」  
荒井 誉史「佐藤栄作政権と拡大核抑止力」  
太田 昌克「『日米核同盟化』の進展とその含意」  
書評：鳥潟 優子、浜中 新吾

『国際政治』204号

倉科 一希「米国の同盟政策における核兵器の位置づけの変容」  
小島真智子「グローバルな核秩序の溶解とフランス核抑止戦略」  
シナン・レヴェント「戦後日本の対中東外交にみる民族主義」  
藤田 将史「米国のIMF利用における国内的意図」  
高橋 力也「戦間期国際法の法典化と国際法学者マンレー・O・ハドソン」  
山口 優人「テロリズム研究における『狂信』の語られ方」  
<特別連載>  
青山 留妙「第五章 『中国とアジア』研究の特徴——『国際政治』誌の観点から」  
武内 進一「第六章 日本の国際政治学におけるアフリカ」  
山尾 大 「第七章 日本国際政治学会における中東研究の変遷」  
東野 篤子「第八章 『国際政治』におけるヨーロッパ研究の動向」  
<書評論文>  
村上 友章「自衛隊による国際平和協力の到達点」  
書評：今井 真士、半澤 朝彦

3. 英文機関紙 *International Relations of Asia-Pacific* Vol.20, No.2, No.3, Vol.21, No.1 掲載論文

<p><i>International Relations of the Asia-Pacific</i>, Vol.20, No.2</p> <p>Charlotte Dany, “Failed cooperation in times of natural disasters: explaining the rejection of humanitarian aid”</p> <p>Stuart Rollo, “The ‘Asia threat’ in the US–Australia relationship: then and now”</p> <p>Yuki Asaba, Kyu S Hahn, Seulgi Jang, Tetsuro Kobayashi, Atsushi Tago, “38 seconds above the 38th parallel: how short video clips produced by the US military can promote alignment despite antagonism between Japan and Korea”</p> <p>Johannes Plagemann, Miriam Prys-Hansen, “ ‘Responsibility’, change, and rising powers’ role conceptions: comparing Indian foreign policy roles in global climate change negotiations and maritime security”</p> <p>Research Note</p> <p>Book Reviews</p>
<p><i>International Relations of the Asia-Pacific</i>, Vol.20, No.3</p> <p>Donglin Han, Zhaoyuan Chen, Ye Tian, “To sign or not to sign: explaining the formation of China’s bilateral investment treaties”</p> <p>Wei-hao Huang, Donald Lien, Jun Xiang, “The power transition and the US response to China’s expanded soft power”</p> <p>Joonbum Bae, “Limits of engagement? The sunshine policy, nuclear tests, and South Korean views of North Korea 1995–2013”</p> <p>Andrew Yeo, “China’s rising assertiveness and the decline in the East Asian regionalism narrative”</p> <p>Research Note</p> <p>Book Reviews</p>
<p><i>International Relations of the Asia-Pacific</i>, Vol.21, No.1</p> <p>Keisuke Iida, “Introduction: competition and cooperation in the Asia-Pacific region”</p> <p>William N. Kring, William W. Grimes, “How has ASEAN+3 financial cooperation affected global financial governance?”</p> <p>Saadia M. Pekkanen, “China, Japan, and the Governance of Space: prospects for competition and cooperation”</p> <p>Midori Okabe, “How states react to the international regime complexities on migration: a study of cases in South East Asia and beyond”</p> <p>Ken Masujima, “Development and strategic competition in Asia: toward polarization?”</p> <p>Isao Sakaguchi, Atsushi Ishii, Yasuhiro Sanada, Yasuko Kameyama, Ayako Okubo, Katsuhiko Mori, “Japan’s environmental diplomacy and the future of Asia-Pacific environmental cooperation”</p> <p>Book Reviews</p>